

えびす

行事ごあんない
えびす万燈籠
西宮まつり
本殿遷座祭



平成二十三年
夏号

諸国探訪
大鳥神社

本殿復興五十年境内整備事業報告
仮殿遷座祭

えびす

NISHINOMIYA EBISU
平成二十三年 夏号

西宮えびす 平成二十三年夏号(通巻第三十五号) 平成二十三年六月一日 発行
発行/西宮神社 〒682-0964 兵庫県西宮市社家町1-17 電話079833-0321 FAX:079833-0325

編集/文化課 印刷/小西印刷所

募集 ども相撲大会参加者

えびす様の荒御霊(あらみたま)をお祀りする当社境内に鎮座する沖恵美須神社では毎年例祭に併せて近い日曜日に、ども達による奉納相撲大会を行っております。幼稚園から小学生までどなたでも参加できますので、どうぞふるってご参加ください。
※尚当日は必ず保護者同伴(グループで代表の保護者でも可)にてお越しください。



- 日時 平成二十三年七月三日(日) 幼稚園の部(一般) 午前九時開始 小学生の部(経験者一般) 午後一時開始 ※開始時刻の二十分前迄に受付へお越し下さい。
- 応募資格 一般の部 幼稚園児(男子・女子) 小学生一~六年生(男子・女子) 小学校一~六年生(男子)
- 経験者の部 ※経験者とは相撲クラブ団体等に所属されている方です ※経験者の方は一般の部には申込み出来ません
- 申込み方法 申込書に必要事項を記入の上、社務所受付にて申込み下さい (申込書は社務所にて準備しております)
- 申込締切 六月二十日(月)必着
- 会場 西宮神社境内南広場 (本殿改修工事につき、会場が例年と異なります)

西宮神社会館 『灯の夕べ』 特別ディナーのご案内

酷暑の夜揺らめくろうそくの灯りが幻想的な雰囲気をかもし「えびす万燈籠」。西宮神社会館では特別ディナーをご用意致しております。今年は食事に合わせてコースアップマジックも披露されます。



●お問合せ先 西宮神社会館 (TEL079833-0331) <http://www.jinjakakan.com>

- 日時 平成二十三年七月二十日(水) 午後六時半~(受付午後六時~)
- お人 税込五千円 (限定六十名様)
- 締切 七月十日(日)まで
- 万燈籠特別メニュー
 - ・季節の取寄
 - ・お造りサラダしたて
 - ・夏野菜の冷たい炊き合わせ
 - ・季節のごはん
 - ・冷やしそうめん
 - ・1ドリンク無料おみやげ付



※メニューが変更になる場合がございます

PC・携帯ホームページ配信中

当社ホームページでは祭典・行事等の予定を随時更新しております。また今回ご紹介いたしました「えびす信仰」是非ご覧ください。

お問合せは西宮神社 (TEL079833-0321) 各担当までお願いします。

編集室から

●昨年一月から行っておりました境内整備事業は九月の奉祝祭をもって完了いたします。当社の趣旨に賛同し、奉賛金・奉納の品をお納めいただいた方には厚く御礼を申し上げます。どうぞご神威も新たに蘇った西宮神社にご参拝いただき、えびす様のご神徳をお受けくださいますようお願い申し上げます。



PC 西宮神社 公式サイト

携帯

行事ごあんない

今年には本殿復興五十年という記念すべき年です。七月～九月まで恒例のお祭りに加えて奉祝行事が目白押し。ここでは九月の奉祝祭までの行事をご紹介します。

七月一日(金)

上旬祭併せ氷室神事(氷餅奉納)

七月三日(日)

沖惠美須神社奉納こども相撲大会

境内末社 えびす様の荒魂(あらみたま)をお祀りしている沖惠美須神社(通称・あらえびす)では、例祭日に近い日曜日にこども相撲が奉納されており、この奉納相撲は江戸時代の記録にも残る歴史の古い神事です。幼稚園から小学生までどなたでも参加できますので皆さんふるって応募ください。
※募集要項は裏表紙をご覧ください



こども相撲大会



氷餅奉納

九月二十日(火)

本殿遷座祭

五月十六日に仮殿へとお遷ししたえびす様に、改修され新しく蘇った本殿へお遷りいただくお祭りで、浄園の中蔵かに祭典は高行されます。

西宮まつり

九月二十日(水)～二十三日(金・祝)

九月二十日から二十三日までを西宮まつりと呼びます。本年は奉祝行事も併せて盛大に行います。

九月二十一日(水)

境内末社 庭津火神社祭

本殿遷座奉祝祭

幣饌を供進し、えびす様の本殿へのお遷りをお祝いします。

奉納芸能

宵宮祭

万燈籠

九月二十二日(木)

例祭

神社にとって年で一番重要なお祭りで、今年には例祭に合わせて本殿復興五十年境内整備事業が完了したことをお祝いします。

稚児行列

こども樽みこし



こども樽みこし



稚児行列

24 土

23 祝

22 木

21 水

20 火

九月

24 水

八月

20 水

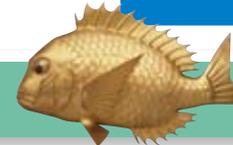
10 日

7 木

3 日

1 金

七月



七月二十日(水)

夏まつり・えびす万燈籠

午前中の暑気払い、無病息災を祈る夏まつり。齋行後、午後六時から境内三百三十基の石燈籠と約五千個のろうそくにこ神火が灯されます。闇夜のろうそく揺らめく幻想的な風景の中、境内松林では女人舞楽、原筈会による舞楽が奉奏される他、涼しさを誘うえびす風鈴や特製うちわも販売されます。



八月二十四日(水)

境内末社 愛宕神社祭

九月二十三日(金・祝)

渡御祭

浜脇地区に御旅所を設け神幸してまいります。



主要祭典一覽 六月～十二月

六月	十四日 十四時	おこしや祭
	十七日 十六時	末社・市杵島神社祭
	三十日 十六時	夏越大祓式・大茅輪くり
七月	一日 十時	氷室神事
	十日 十二時	末社・沖惠美須神社祭
	十四日 十時	末社・住吉神社例祭
	二十日 十時	夏まつり・えびす万燈籠
八月	二十四日 十二時	末社・愛宕神社祭
	二十日 十二時	本殿遷座奉祝祭
九月	二十一日 十七時	宵宮祭
	二十二日 十七時	例祭
	二十三日 十七時	秋季皇霊祭通拝式
十月	一日 十時頃	渡御祭
	十七日 十時	神嘗奉祝祭・神宮通拝式
	二十日 十時	明治祭
	二十一日 十時	誓文祭
	二十三日 十時	造宮記念祭
		新嘗祭
毎月	一日 十時	上旬祭
	十日 十時	中旬祭(おかし頒布)
	二十日 十時	下旬祭
	毎日 七時半	日供(朝御饌)
		冬期八時
		十六時 夕御饌

九月二十四日(土)

社用日記出版記念講演会

西宮神社の歴史を紐解く社用日記翻刻出版を記念して講演会を行います。



海上渡御



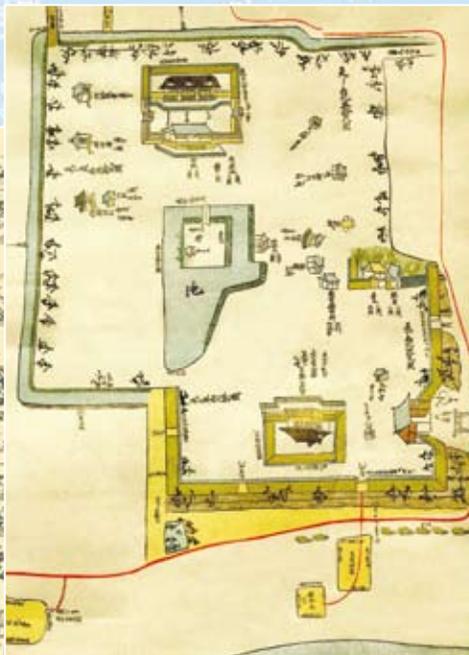
童女による神楽奉仕

陸渡御

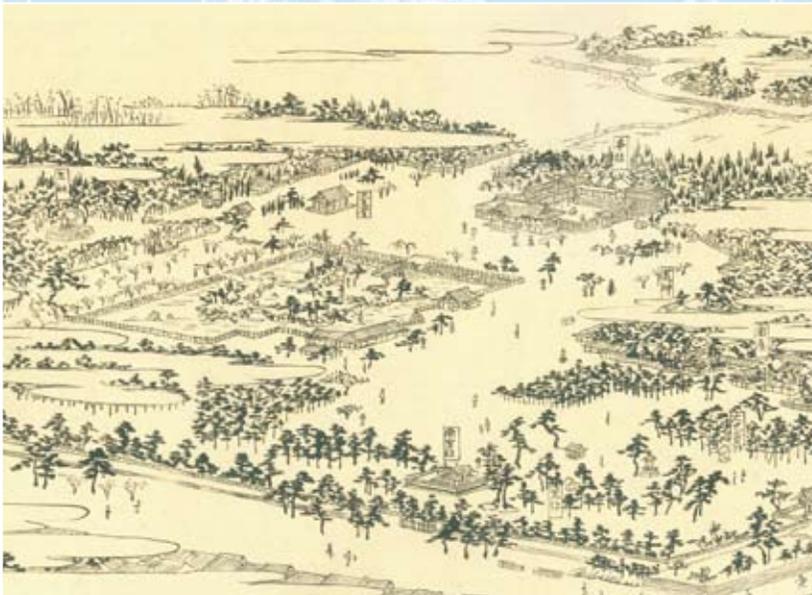


若戎会だんじり

祈禱殿の新築と神池の修景整備



〔図一〕「貞享三年廣田西宮両宮絵図(部分)」
(廣田神社蔵)



〔図二〕「撰津名所図会」

この度の本殿復興五十年境内整備事業の内、昨年(十二月)に先行して完工された祈禱殿の新築と神池の修景整備の要諦を述べさせていただきます。

「環境配慮」と、計画の留意点「景観調和」に定められました。新たに建設する祈禱殿を境内の中心、神池と本殿に至る参道との間に配置する計画が採択された経緯から、設計に際しては景観調和への配慮を強く求められる状況になりました。「参道から祈禱殿・神池、そして本殿」、「本殿から神池・祈禱殿」、「祈禱殿を背景とした神池」、これらの景をCGパス、模型、縄張り、モックアップなどにより検証し、新たな景観の構想が形作られました。

神池修景整備の主旨は、先の震災後急急に復旧されていた神池を「もとの姿に復する」と、永年の課題である「池水を美しくする」の二点です。

●二六八六年(貞享三年)旧社地記録図資料の古地図(図一)の形状と現形状と構成は類似している。但し境内は現在と異なり相当簡素で中島は単純な四角形となっている。

●二七四三年(寛保三年)社頭日記によると、四国の丸亀から吉田久右衛門という庭師を呼び、約八十日、数百人で池の改築や境内の修復をしている。この工事で池にあった方形の島を現在の三島にしたことが明記されている。

●二七九六年「撰津名所図会七巻」(図二)に表されている神社境内の木版絵図は現形状に概ね一致しており、本庭園が現在の庭園の原型と解釈できる。

以上より総合的に判断して、一七四三年築造の庭園に復することを神池の修景整備の方針といたしました。

神池はため池構造のため、ヘドロの活性化、植物の落葉落枝、鯉・亀の餌、排泄物、地表水の流入、青藻発生などにより池水が汚濁しやすい環境にあります。池水浄化については循環型の浄化システム(機械設備)を採用し、計画的に水質を維持することとしました。新たな仕組みが開始しましたが、相手は自然。季節の移ろいと共に変化する状況に臨機応変の対応が求められています。

今秋、本殿の改修工事完工をもって本殿復興五十年境内整備事業は完了いたしますが、その成果は全て次の時代へ引き継がれていきます。式年行事そのものが「サステナブル・継続性」の象徴であり、メッセージでもあります。意義深い事業に参画させていただきましたことに感謝いたします。

大林組 建築設計部 海野 克則



修景整備された神池

「本殿復興五十年境内整備事業」ご奉賛者名簿

左記の方々よりご奉賛のお申し込みを賜りました。ここに「ご芳名を録し、厚く御礼申し上げます。

◎百万元以上

- 荒木 正博
- 小上馬 一三
- 小上馬 央恵
- 西條 雅康
- 末廣 和昭
- 森本 直樹
- 前田 榮子

◎五百万円

阪神電気鉄道(株)

◎調度品奉納者御芳名

- 大阪第一招福組 帽額 一帳
- 灰山 季久雄 祈禱殿神鏡 一面
- 平澤装束店 玄関幕 一帳
- 茂木 和彦 祈禱殿神鏡台 一台

◎十万元以上

- 足立 美知子
- (株)荒木装束店
- 上田 公司
- 裏千家今日庵
- 遠藤 和徳
- 大西 陽子
- 大場 善延
- 笠井 敦子
- 岸本 種一
- 岸本 千代子
- 志水 忠義
- 医療法人 社団晴和会
- 淡交会 阪神支部
- 東福鍛工(株)
- (有)中西装束店
- 原村 絃一
- Healing office KAM 気功正体院
- 平井 良朋
- 平澤装束店
- 福寿会
- 村上 清美
- 眼鏡のウチダ
- 森 直紀
- (有)ヤマト食品

◎二万元以上

- 赤松 茂樹
- 浅田 晴子
- 小宮路 薫
- 佐伯 照道
- 坂根 徹
- 坂根 多紀子
- 佐々木 一彦
- 佐々木 文男
- 佐藤 ノブ子
- 佐藤 玲子
- 高橋 潤一
- 白井 陽子
- 仁眼科 院
- 杉本 篤子
- 鈴木 紀夫
- 砂村 梅晴
- 真衣 真衣
- 盛山 敦史
- 全国陶器市振興会
- 高石 泰成
- 高木 靖昌
- 高島 明美
- 高橋 英恒
- 竹谷 満
- 竹中 雅三
- 立岩 一雄
- 立岩 朗
- 田中 さよ子
- 田中 久雄
- 玉井 敬三
- 寺岡 美保
- 寺岡 昌克
- 中川 豊昌
- 中川 宏昌
- 中村 勝
- 西井産業(株)
- 西井 玲子
- 西野 玲子
- 小林 啓二
- 小林 良子
- 小宮路 薫
- 佐伯 照道
- 坂根 徹
- 坂根 多紀子
- 佐々木 一彦
- 佐々木 文男
- 佐藤 ノブ子
- 佐藤 玲子
- 高橋 潤一
- 白井 陽子
- 仁眼科 院
- 杉本 篤子
- 鈴木 紀夫
- 砂村 梅晴
- 真衣 真衣
- 盛山 敦史
- 全国陶器市振興会
- 高石 泰成
- 高木 靖昌
- 高島 明美
- 高橋 英恒
- 竹谷 満
- 竹中 雅三
- 立岩 一雄
- 立岩 朗
- 田中 さよ子
- 田中 久雄
- 玉井 敬三
- 寺岡 美保
- 寺岡 昌克
- 中川 豊昌
- 中川 宏昌
- 中村 勝
- 西井産業(株)
- 西井 玲子
- 西野 玲子
- 丹羽 晃江
- 萩谷 由起子
- 長谷川 和利
- 長谷川 誠次
- 早川 博之
- 早川 佳幸
- 林 さとみ
- 林 志郎
- 原田 佐千子
- 樋口 能男
- 久常 清子
- 久森 毅
- ヒューマンゼミナール
- 平田 雅裕
- 福井 雅泰俊
- 藤井 治城
- 藤原 静雄
- 藤原 進一
- 古市 昌美
- 星市 實
- 松尾 神社
- 松島 君子
- 松野 信香
- 三ツ星 公正
- 森 徳見
- 森本 顕壽
- 八木 正人
- 山下 裕史
- 山下 邦夫
- 雪本 佳央
- 横谷 隆彦
- 横野 善彦
- 吉井 新一
- 吉岡 睦子
- ラウロト 謙
- 渡邊 充成

◎二万円未満 二六九名の方々

西宮神社職員一同



(平成二十一年十月、平成二十三年四月現在五十音順敬称略)



西宮神社 えびす信仰資料展示室

『えびす様の お面 土鈴展』



西宮神社は全国に約三千あるえびす大神を祭る神社の総本社です。えびす様をかたどった土人形や、お面、土鈴、絵皿などが今も作り続けられています。この度西宮神社本殿復興五十年にあたり、えびす信仰に関する文化事業の一つとして、えびす信仰資料展示室を本年月から開設し、全国各地の「えびす様」をご覧頂ける様にしております。一月二十四日から三月末までの第一回目は「えびす様の御神像、広告・引札類」とし、約二千八百人の「来館がありました」。

今回は「えびす様のお面と土鈴」として約百三十点を六月末まで展示しております。七月からの第三回目は「御神影」を中心に展示を考えておりますので、是非ご参拝、ご来館下さいませ。ご案内申し上げます。また収蔵の資料は、公式ホームページでも公開しております。
<http://nishinomiya-ebisu.com>

「えびす様のお面と土鈴」お面(仮面)はそれを被る事により、その面の象る神や祖霊また動物などの霊が宿ると信じられ、神道儀礼仏教儀礼、派生した演劇などに用いられてきました。また、土鈴(どれい)も古代祭祀遺跡からも発見される事から、宗教的呪術的に使用されていた事が窺えます。やがて実用的に、山での獣除けに使用され、現代ではその鈴の音が愛でられています。



西宮神社 十日参りと

創作和菓子『とおかし』

一月十日の十日えびすは有名ですが、毎月の十日にも十日参りが行われています。十日参りの祭典は、午前十時から本殿において執り行われ、宮司が国家の安泰、氏子崇敬者の繁栄に加え、この四月からは東日本大震災からの復興を祈願する祝詞を併せて奏上しています。この十日参りの日に合わせ、その季節やえびす様に因んだ創作和菓子、十日菓子を「とおかし」と名付けて、毎月十日の日に限りお届けしています。

初回の四月は、えびす様につき物の鯛を、菓子職人が「桜鯛」の形に一つ一つ手作りして練り切った菓子を授与しました。五月は当社の社紋に因み「三ツ柏餅」と致しました。十日参りにご参列頂いた方には、「とおかし」一箱をおさがりとして授与しています。又、境内神池池畔の「おかめ茶屋」にて、当日に限り一箱五百円にて販売しています。限定百五十箱の調製の予定です。



四月とおかし
桜鯛

五月とおかし
三ツ柏餅



おかめ茶屋



茶屋改修工事完了お披露目



おかめ茶屋内

おかめ茶屋

明治の頃から在ったとされる「おかめ茶屋」。現在の建物は昭和五十年代に建てられ長年参拝の方々に親しまれて来ましたが、祈禱殿新築、神池の改修に併せ、内装を明るく時代に合ったものに改装しました。同時にメニューも新味を加え「満足(みたらし)団子」と「ちび鯛焼き」を始めました。お池に張り出したテラス、レストラン風の室内で、昔からの甘酒やワラビ餅などと共に召し上がり、えびすの森でのゆったりとお流れる時間をお楽しみ下さい。



ちび鯛焼き(上)と満足団子(下)



本殿の改修 仮殿遷座祭

西宮神社は昭和二十年（一九四五）、先の大戦の空襲でほとんどの建造物が烏有に帰してしまいました。その後、氏子崇敬者の熱意と浄財をもって昭和三十六年（一九六一）十月、本殿は旧国宝の姿のままに麗しく復興されました。これより数えて今年には五十周年を迎えますので、吉例に倣い、本殿・拝殿の修復を行ないます。

昨年度は祈禱殿が竣工、神池の護岸工事等も同時に完工し、本年はいよいよ本殿・拝殿の改修に取り掛かりました。拝殿は一月末より四月末にかけて柱や壁の塗装、飾り金具などの磨き、修理などを行いました。そして次に本殿の改修工事を始めるにあたり、三殿の御神霊を仮殿にお遷しする仮殿遷座祭（かりでんせんざさい）を五月十六日の午後八時より行いました。仮殿遷座祭当日は、神職巫女等全職員に加え、旧職員の神職、氏子世話人、神輿奉賛講社・開門神事講社議員、若戎会の方々と共に浄閣の中、古式に従い無事遷座祭を斎行致しました。

仮殿は、十六年前の阪神大震災後の本殿修理の際にも遷座されました神輿殿としてあります。当分の間、この仮殿で祭典を行いますので、一般のご参拝もこちらでお参りしていただく事になります。

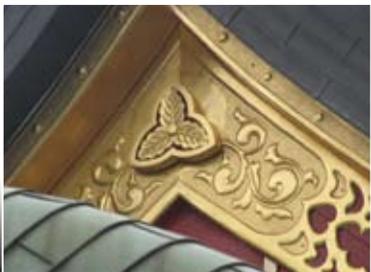
今秋九月二十日には本殿改修を終え、元の社殿にお還りいただく本殿遷座祭（ほんでんせんざさい）を斎行致します。



足場が組まれ改修工事が進む拝殿（二月）



完成間近（四月）



綺麗になった飾り（四月）



仮殿遷座祭（五月十六日）



拝殿扉の取り付け（四月）



仮殿遷座祭（仮殿）



仮殿遷座祭（遷御）

●社号の扁額

昨年未竣工した祈禱殿の玄関に入り、右に曲がると受付に至ります。左手には、神池を背にするように此の様な社号の扁額が掛っています。これは長らく本殿の西にあった絵馬殿に掲げられ、ご記憶の方もいらっしゃるかと思います。先の阪神大震災で絵馬殿が倒壊し、多くの絵馬や額類が失われ



（表面）西宮大神宮



（背面）

ましたが、生き残った数少ないもの一つです。これの由来は背面に彫られて

いますが、今は後ろに廻っても見る事は出来ません。

（背面）略記

抑此扁額二用シ樟樹ハ當社境内東隅ノ森林中ニ繁茂セシ天老樹ナリシガ 命ナル哉時ニ明治貳拾有九年九月上旬風雨ニ際シ其側ノ池上へ根底ヨリ卒倒セシ旬日ヲ経テ八馬兼介氏ノ周旋ニヨリ吾等両名数百金ヲ以テ之ヲ購ヒ伐木ニ掛リ木皮ヲ剥シニ満木凹穴ヲ以テ充サル 是レ則テ至ナリ 爰ニ至テ生等ノ喜慶ハ難シ 終ニ大阪ニ持歸リテ大利ヲ得タリ 是レ實ニ當社福神ヨリ吾等両名へ授ケ賜リシ幸福ト欣喜余リ此福木以テ扁額ヲ造リ當社境内随ノ最大老樹記念ノ為ニ奉納セシ者也

大阪市西区立賣堀南通六丁目
明治二十年十月 材木商 天野忠三郎
小田亀治郎



●献茶祭—四月二十八日
裏千家千玄室大宗匠奉仕

毎年若葉薫るこの季節に、裏千家千玄室大宗匠奉仕の献茶祭が執り行われていきます。

淡交会の会員を中心に、約二百



裏千家 千玄室大宗匠

人の参列の下、濃茶、薄茶の二服お茶が点てられ神前に供えられます。大宗匠のお点前とあつて、参列の人々はその所作二つを見逃すまいと、見入っていました。献茶祭の後は、社務所和室に設けられた拝服席に移り、茶菓を楽しんでおられました。

●境内の花々をご紹介

神苑の桜

今年の神苑の桜は、例年になく綺麗に見事に咲いたように思いました。



浮世の人々の驕りとも、原子力発電所の崩壊とも無縁のように、己の宿命をそのままに咲いているように見えました。

梨の花

神池の西、おかめ茶屋の前に梨の大きが



あるのをご存知でしょうか。毎年純白の花が咲き、秋には小ぶりながら実も付けます。高木なので実には届きませんが、カラスは美味しそうに食べています。同じ頃、藤も咲き始めました。

池の端の雪柳、枝垂桜

昨年の神池の改修後、初めての春を迎え、六英堂の護岸に雪柳と、新たに植栽された枝垂桜が咲きました。足元には水中から菖蒲も芽吹き、この社報をお届けする頃には、花をつけているでしょう。

